



## 甲状腺新聞

### Part 2 橋本病



橋本策先生

橋本病の原因は、遺伝素因と年齢、妊娠・出産に伴う免疫の異常、ヨウ素などがあります。甲状腺に対する抗体ができて、甲状腺が壊れて、甲状腺ホルモンが少なくなります。

甲状腺ホルモンが少くなる症状は、皮膚乾燥、易疲労感、浮腫、寒がり、脱毛、体重増加、便秘、意欲の低下、月経異常、不妊症、傾眠、めまい、難聴、嚙声などです。

橋本病の検査: 採血で甲状腺の機能を測定し、橋本病の抗体を測定します。

(甲状腺ペルオキシダーゼ抗体、サイログロブリン抗体)

甲状腺エコーは、甲状腺の大きさ、内部の血流や腫瘍の評価、リンパ節腫大などが分かります。

橋本病の治療: 甲状腺ホルモンが正常の場合は、経過をみます。

甲状腺ホルモンが少ない場合は、甲状腺ホルモン(チラーゼンS)を内服します。

妊娠初期は、甲状腺ホルモンが不足していると不妊症の原因になります。

採血で、甲状腺刺激ホルモン(TSH)と甲状腺ホルモン(FT4)を測定し、甲状腺刺激ホルモンを $2.5\mu\text{IU/ml}$ 以下になるように調節します。

甲状腺機能が低下すると、悪玉コレステロールが上昇します。長い期間悪玉コレステロールが高いと、狭心症や脳卒中の原因になることがあります。



橋本病で甲状腺に炎症が強く起きると、甲状腺が壊れて中に溜めている甲状腺ホルモンが、放出され、一過性の甲状腺機能亢進症をきたすことがあります。橋本病の急性増悪と呼ばれます。出産後では、無痛性甲状腺炎と呼ばれることもあります。